



さい帯血情報

脳性まひのお子さまに、ごきょうだいのさい帯血を用いる国内初の臨床研究が開始されます

脳性まひのお子さまに対し、ステムセル研究所で保管されているごきょうだいのさい帯血を投与し、脳障害の改善を目指す再生医療の臨床研究が、厚生労働省厚生科学審議会（再生医療等評価部会）の承認を得て、高知大学にて開始されます。対象は、脳性まひと診断された1歳以上7歳未満の8人です。高知大学では既に、脳性まひのお子さまにご本人のさい帯血を用いる臨床研究を行っており、一定程度の効果が確認されているとの事です。ステムセル研究所は、さい帯血による再生医療への可能性を切り開くため、今後もこうした研究をサポートさせていただきます。

朝 日 新 聞

2020/9/25 掲載

脳性まひの子 臍帯血で再生医療

脳性まひの子どもに対し、きょうだいの臍帯血に含まれる細胞を使い、脳障害の改善をねらう再生医療の臨床研究を高知大学が始める。厚生労働省の部会が24日、了承した。対象は脳性まひと診断された1歳以上7歳未満の8人で、民間バンクに凍結保存したきょうだいの臍帯血を輸血する。免疫の型が一部合うことが条件で、輸血後2年間、安全性や運動障害の改善効果などを調べる。脳性まひは出産前後に脳が損傷されることで起きる。根本的な治療法はなく、リハビリなどが中心になる。

臍帯血は母親と赤ちゃんをつな

きょうだいから輸血臨床へ

ぐへその緒にある血液。血液のもととなる造血幹細胞が多く含まれ、白血病の治療などに使われている。ほかにもさまざまな細胞に変化する幹細胞が含まれ、再生医療への応用が期待されている。幹細胞から出る物質は損傷した場所の炎症をおさえたり、血管や神経のネットワークを新たにつくったりするはたらきがあるとされ、脳障害などの改善をめざす研究が米国で進んでいる。高知大でも脳性まひの子どもに本人の臍帯血を使う臨床研究をしていて、効果が一定程度確認されているという。

(後藤一也)

朝日新聞社に無断で転載することを禁じる 承諾番号:20-3606

【本件に関するお問い合わせ先】 株式会社ステムセル研究所 細胞技術本部 電話:03-5408-5324